百姓仁平

今野大力

青空文庫

何つう病気だか知らねいが、
俺家(おらえ)のたけ子奴(め)病気だどって帰って来た
何でも片足だけは血が通わねえんだって
そしてくさりこんでさ
うみが出て　うみが出て、
血の通うところまでぶった切って
生れにもない片輪になりやがって
二十一の働き盛り　嫁盛りに
何つうこった
俺あ口惜(くや)しくて涙も出ねい
たけ子の野郎奴は
ロクすっぽ金も持たずにおんだされて来やがった

どうすべか
いい考えもありやしねい
ああ俺は口惜しくてなんねい。

それにさ
此処ら辺は去年の早霜で
五段の蕎麦(そば)畑から三俵の収穫だ
米粒なんぞあ拝みていたってありやしねい
毎日(まいひ)毎日馬鈴薯(ごしよいも)と燕麦(えんばく)ばかり
燕麦なんぞ馬糧(ばりよう)だに、
何つう地獄だ、何つうどぶ底だ。
神でも仏でも面(つら)見せろ！

俺あだまされた
三年経てば地主様だの
五年経てば立派なお百姓だのと
ああ　俺あ口惜しい
どうしてくれべに
畜生！

俺あきいたぞ、俺あ覚えていんぞ、
地主の野郎こそとんでもねえ泥棒だに
俺あここで七年が間
ほんとに辛い
胸一杯の辛さ　悲しさ　口惜しさ耐(こら)えて
骨身を肥料(こやし)に働いて来たに
残ったものは何にもねい
老爺(じじ)と老婆(ばば)と
貧乏と　意地張りと
病気の娘っ子と小(ちっちゃ)い息子

俺あ嫌(や)んだ
朴直の　謹直の　実直のと
ちゃんちゃらおかしいや
なんぼ騙(だま)そたって騙されるもんけい
俺あ考えていんぞ
俺あ屹度(きっと)、えい屹度、

あいつをぶちのめすんだ
咽喉笛（のどぶえ）、首っ玉さ噛りついてさ
暴れてくれべと思うんだ
えい畜生！　泥棒やろ！
おぼえてけつかれ！

（『文芸戦線』一九三〇年五月号に「百姓仁平は起つ！―北海道××村争議団へ―」と題して今埜大力名で発表『今野大力・今村恒夫詩集』改訂版を底本）

青空文庫情報

底本：「日本プロレタリア文学集・39　プロレタリア詩集（二）」新日本出版社
　　1987（昭和62）年6月30日初版
底本の親本：「今野大力・今村恒夫詩集」新日本出版社
　　1985（昭和60）年4月改訂版
初出：「文芸戦線」
　　1930（昭和5）年5月号
※初出時の表題は「百姓仁平は起つ！―北海道××村争議団へ―」です。
※初出時の署名は「今埜大力」です。
入力：坂本真一
校正：雪森
2014年5月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

百姓仁平

今野大力

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/